



図書館だより

目次

新型コロナウイルス感染症流行下の大学図書館	——白杵 陽	1
日本女子大学叢書の紹介		
「クライアントの視点」再考—ブリーフセラピーからの 一提言」	——青木 みのり	2
著作紹介『メイド服とレインコート：プリティッシュ・ ファッションの誕生』	——坂井 妙子	3
ケルムスコット・プレス刊本の詩集	——川端 康雄	4
新しい電子書籍の導入のご案内		
Maruzen eBook Library	——飯山 智子	6
LibrariE	——南木 香織	6
2019年度ミニ講座の実施について	——中澤 恵子	7
図書館からのお知らせ		8



図書館（目白）地下1階電動式集密書架

新型コロナウイルス感染症流行下の大学図書館

白杵 陽

新型コロナウイルス禍で日本女子大学図書館も長期にわたって閉館を余儀なくされました。言うまでもないことですが、このような感染症や伝染病の世界的な大流行（パンデミック）の状況下では、大学図書館のように、みなさんが共通して利用する場における相互の接触を可能な限り減少させるという観点からはやむを得ないことでした。

しかし、6月からは事前申込制という限定したかたちではありますが、みなさんにも利用できるような状況に漕ぎつけました。ただ、第二波も懸念されていますので、まだまだ予断を許しません。もちろん、さらなる感染の拡大を防ぐために入館者の皆さんには出入り口で手を消毒していただくとか、資料や館内設備に触れた後はこまめに手洗いしていただくなどの対応は不可欠であります。

臨時閉館中は図書館自体に長期間アクセスできなかったため、学生・院生、そして教職員のみなさんにはたいへんな不便をおかけしました。とりわけ、卒論、修論、あるいは博論を執筆している方々にとっては大学図書館所蔵の文献等に直接アクセスできない状況が長く続いて、執筆に遅滞が生じたのではないかと懸念しております。

講義あるいはゼミに関しても、学生・院生のみなさんはこの期間中、MS Teams、Zoomなどのインターネットを利用してオンライン授業を受け、あるいは演習などにも参加したのではないかと思います。このようなコロナ禍のような新たな状況は、図書館というみなさんが共有する施設に関して、その役割を改めて考え直してみる必要があるように思われます。

今回のようにみなさんが長期間、直接来館することができなくなる状況は初めてのことです。ただ、本学図書館では自宅からでも図書を閲覧できるような機能の強化にこれまでも努めてきました。例えば、本学図書館のデータベース等のうち、「EZ」と表記されているタイトルは、「学外アクセス（EZproxy）」のボタンから進むことで、学外からも利用できる機能があります。また、2020年6月15日からは紀伊國屋書店が提供する電子図書館サービス LibrariE（ライブラリエ）の運用を開始しました。このサービスを通じてネット上で貸出・閲覧・予約・返却ができるようになりました。今年度は電子書籍の購入予算を大幅に増加したりしています。

しかし、このような「対症療法」的な対応だけではみなさんの要望に応えることはできないことは十分に認識しております。みなさんからご意見などをお寄せいただければ幸いです。

（図書館長・史学科教授）

青木みのり著 『「クライアントの視点」 再考—ブリーフセラピーからの一提言』 (日本女子大学叢書22)

青木みのり

クライアントにとって、心理療法を受けるということは、どのような体験なのだろうか。どのような体験があると、「相談して良かった」と思えるのだろうか。この素朴な疑問に端を発し、本書は生まれた。心理療法の一つであるブリーフセラピーのSFA（解決志向アプローチ）による3回の時間制限面接を行い、問題のイメージがどのように変わるかを示そうと試みた。変化を描く手法としてPAC分析（個人別態度行動分析）と、M-GTA（修正版グラウンデッドセオリーアプローチ）という2つの質的分析法を組み合わせ、9名の調査協力者の方の貴重なデータを分析している。心理学の分野としては心理療法の効果に関わることであり、研究法としては質的研究の領域に入るだろう。一般には心理療法の効果研究では、質問紙などの量的な指標が用いられるが、本書では少し変わったアプローチをとっていると言える。心理療法を受けることによる人の心の変化のプロセスや、質的研究に興味のある方には、関心を持っていただけるのではないかと思う。2015年に博士号を取得した際の学位論文であり、ささやかながら私が実践で得た智慧をまとめたものである。



カバー絵には、ベルギーのシュルレアリスム画家、ルネ・マグリットの「光の帝国」を採用させていただいた。この絵との出会いは、高校時代にさかのぼる。透明感のある美しい色遣いに強く惹かれたのだが、それだけではない。一見静謐な風景画のようだが、よく見ると現実にはあり得ない不思議な光景であることに気づく。空は明るい昼の晴天なのに、手前の家や木立は闇に包まれあたかも夜のようにであり、それを照らす街灯や窓の明かりが秘密めいて印象的である。その奥深い世界観にも魅力を感じた。この作品を自書の表紙に飾れたことには、今までの自身の長い旅路を感じると同時に、あの頃のようにみずみずしい好奇心へと還ってきた、という意味で、原点回帰であるようにも思う。私にとっては両方の意味合いがある。

そしてマグリット自身が、「私はこの絵のように昼と夜の両方に関心があるのです」と述べていることも、興味深い。相反するようになって、片方がなければもう一方も成立しない互いの関係。現状で見えていない面への目配りが常に必要とされる心理療法のあり方にも通じるところがある。

余談だが、本書の出版は私にとって「自分の唯一無二の思いを言葉で伝えていこう」という思いを、より強める契機となった。自分でも予想しなかった変化だった。それは「人々の語りから社会が創生される」とする社会構築主義とも関連する。自分が語ることで、何かが変わるのだろうか。いや、変わらないかもしれない。それはわからないが、とにかく語ってみること。そしてその行く末に関心を向け続けること。自分が発した言葉の広がりや、注意深く見守りたいと思った。

心理職というと「話を聴く」イメージを持たれがちだが、実は自分の言葉が相手にどのように影響するかということは、人を支援する営みにおいて重要なことである。時代とともに、多職種連携が支援者の専門性としていっそう求められるようになったが、心理職に求められる専門性は、関係者と連携しつつ、クライアントの心の内面に関心を向け、理解と関わりを試みることであることには変わりがない。同時に関係者がクライアントを理解することを助ける必要がある。心のひだを言葉にうつし取る営みはとても繊細だ。簡単なことではないが、クライアントとの学びから得た無形のもの、伝えていきたいという思いを新たにしたい。本書をどのように読むかは読み手にゆだねられているが、読者がもしも何かを感じ取り活かしていただけたら、この上ない喜びである。

(心理学科教授)

著作紹介

坂井妙子著『メイド服とレインコート：ブリティッシュ・ファッションの誕生』

坂井妙子

本著はブリティッシュ・ファッションの誕生を19世紀後半のロンドンに求め、その成り立ちを5つのスタイル—レインコート、乗馬服、メイド服、花柄のコットン・ドレス、エステティック・ドレス—から考察した研究書である。最後のエステティック・ドレスを除けば、いずれも日本人に馴染みのあるファッションであり、「ブリティッシュ・ファッション」のイメージとも結びつきやすい。

これら19世紀後半のイギリスに生まれたファッションが日本人に馴染みやすい理由は、「ミドルクラス」と呼ばれる社会の中間層が牽引したからでもあるだろう。通常、歴史的なファッションは王族や貴族など社会の最上層部に位置するものが享受するが（したがって、下々の我々はただ見て、羨ましがらだけ）、近代化の進んだイギリスでは、ミドルクラスの女性たちが独自の「イギリスらしさ」をファッションに見出していく。これを可能にしたのは流通、化学技術、情報の伝達、各種産業の発達であり、これら全てが集結したのが首都、ロンドンだった。したがって、ブリティッシュ・ファッションとはロンドンのファッションとほぼ同義であり、この考えに則って本書も考察を進めている。

では、ロンドンのファッションの特徴とは何だろうか？ 服飾史家、クリストファー・ブルワードによれば、「伝統、革新、オルタナティブとスタイルの融合を同時に配慮すること」だという。一見、矛盾に満ちた言葉の並びだが、ロンドンという都市が変化に富み、躍進的で、問題を孕むがゆえの特徴であり、陰気でカビ臭いヴィクトリア朝からモダンな20世紀へと突き進む過程で得たダイナミズムでもある。本著で扱うファッションもこれらの要素を包含しつつ、独自の発展を遂げる。

もう一つ、本著で扱うブリティッシュ・ファッションで重要なことは、フランスとの関係である。西洋のファッションを考察する際に、フランス・モードの影響を無視することはできない。もちろん、イギリス人もこのことを認識しており、それゆえ、独特の対処法を編み出した。具体的には、18世紀後半以来、イギリス人はフランスのモードを「センスは良いが、不道德」と弾劾することで、「野暮ったい」イギリスのミドルクラスファッションを家庭的で良心的と擁護した。なんとというか、負け犬の遠吠えだが、これに時期的な要素が加わる。17世紀後半以来、絶対優位を誇っていたフランス・モードが第二帝政の崩壊とフランス-プロシア戦争（1870-71年）の影響で危うくなり、1870年代には、モードの中心地、パリが孤立するのである。そこに、ロンドンがモダンなファッションの都として名乗りをあげる余地が生まれた。ロンドンの高級紳士服店が女性のためのテーラード・スーツ（男物仕立てのスーツ）や乗馬服をデザインし、販売を始めたのである。男性服に伝統的に使用されてきたウールを女性服に取り入れること、生地特性上、色彩、スタイル、カットも自ずと男性服に近づくが、保温、耐久性、動きやすさは格段に向上する。これを武器に、モダンなイギリスの女性にふさわしい服として売り出した。

さらに、負け犬の遠吠えから一歩前進して、色彩学を系統立てて「学習」することで、センスの悪さを埋め合わせようとした。フランス人のセンスをただ羨んでも仕方ない。イギリス人の道徳心と忍耐力、工夫で学習し、さらに、国内産業と結びつけることで、文明の先端をゆくモダンなイギリスらしいファッションを作り上げていったのである。

本著で取り上げる主な資料はイギリス各地の美術館に所蔵されている現物資料、ファッション誌などだが、個人の日記、小説も扱う。ホームズやディケンズも登場するので、文学が好きな人にもお勧めする。詳細は読んでのお楽しみ。

(文化学科教授)

2019年2月発行 勁草書房 180頁 *目白, 西生田所蔵, 請求記号383.1-Sak



ケルムスコット・プレス刊本の詩集

川端 康雄

ウィリアム・モリス（1834-96）は生前はデザイナーとしてより詩人としての評判のほうが高く、出世作にちなんで『地上楽園』の詩人」というのが彼を紹介する通常の形容辞だった。ケルムスコット・プレス（以下、適宜 KP と略記）でモリスは第一詩集『ギネヴィアの抗弁その他の詩』（KP5；1892）から最新の詩集まで、自作のすべての詩集を刊行している。のみならず、自身が愛読した詩人たちの代表作を KP の書目に加えた。古いものではチョーサーがまず挙げられる。KP の最高傑作とされるその作品集についてはすでに述べた。シェイクスピアについては、物語詩集『ヴィーナスとアドーニス』と『ルクリースの凌辱』、それに『ソネット集』を併せて一卷としている（KP11；1893）。シェイクスピアの戯曲の企画もあったが（『マクベス』の試し刷りが残されている）、これは実現しなかった。17世紀の詩人口バート・ヘリックの詩選集（1896；KP37）は「薔薇の蕾をまだ間に合ううちに摘みなさい」で始まる「乙女たちに、時を大切にするように」をふくめ13篇の詩を収めている。18世紀のいわゆる（英文学史でいう）「オーガスタン」期の文学をモリスは嫌っていたので、ドライデンやポーラ、その時期の詩人をひとりも入れていないのは彼の嗜好をよく反映している。

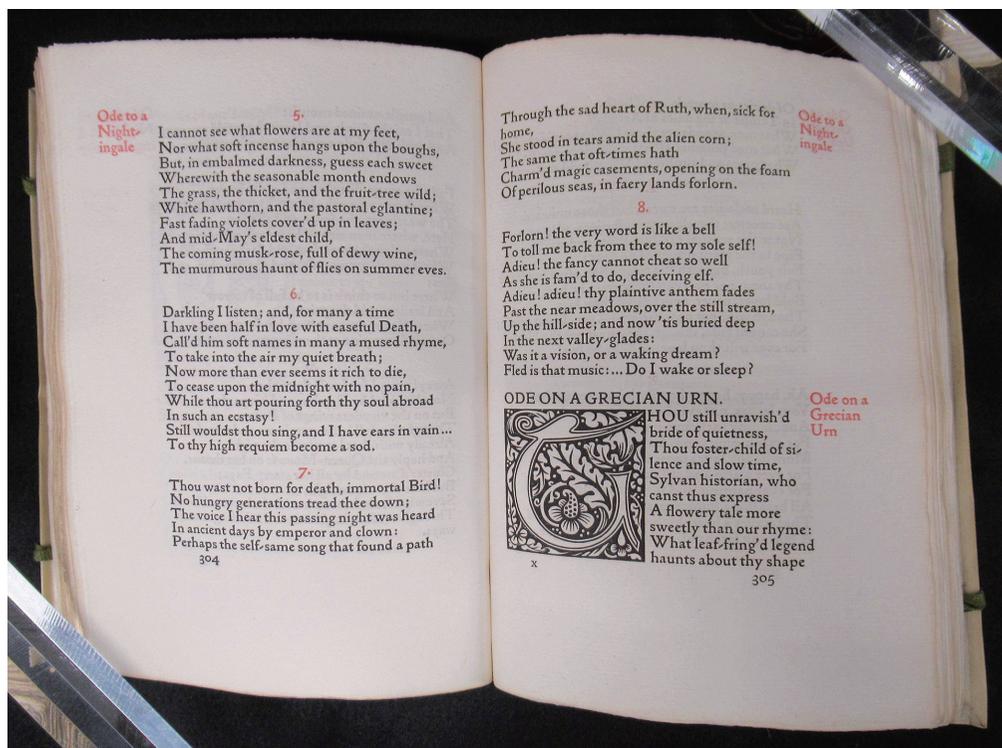
むしろその直後、18世紀末から19世紀初頭に展開されたイギリス・ロマン主義運動を代表する詩人たちの作品をモリスは KP に入れている。モリスへの影響源としてはチョーサーらの中世文学が大きいことはすでに述べたとおりだが、それと並んでロマン派詩人の影響も甚大であった。たとえば革命的社会主義者としてのモリスに着目した歴史家 E. P. トムソンの評伝『ウィリアム・モリス』（1955）は、副題を「ロマン派から革命家へ」とし、青年期にジョン・キーツらロマン派詩人たちから受け継いだ既存体制への反抗精神がモリス後半生の革命的社会主義者への展開に接続されていることを強調している。ロマン主義運動を18世紀末から百年有余にわたる長期的な運動ととらえる見方もあり、たとえばグレハム・ハフの『最後のロマン派たち』（1949）では、モリスをジョン・ラスキン、W. B. イェイツらと並んで、「最後のロマン派」のひとりとして論じている。

さて、狭義のロマン派詩人たちのなかでモリスが KP 刊本に加えたのは（収録順で挙げるなら）ジョン・キーツ、P. B. シェリー、そして S. T. コールリッジだった。この収録順がモリスの評価というか好みをそのまま反映している。これらの詩集の編者を任されたのはモリスの長年の友人で出版人の F. S. エリスだった。収録作品について問い合わせたエリスに対して、モリスは「キーツは時々居眠りすることがあるとはいえ、偉大な詩人です。なので選集にすることじたい気が進まないほどです」（モリスの1894年1月8日のエリス宛書簡）と答え、こうつづけている。

「コールリッジは支離滅裂の形而上学者だったのだが、ある奇妙な運命のいたずらによって、ふだんは退屈きわまりない愚鈍の荒涼たる流れのなかにながら、ほんの一握りの本物の詩を作り出したのでした。詩集に収録すべき作品は、そうした本物の詩だけです。さもないとまた一冊、無用の本を増やして世間に迷惑をかけることになるでしょう。「クリスタベル」は、細部が見事だからかろうじて合格ですが、それよりほんの少しでも出来の悪いものは入れてはいけません。彼の詩と彼の戯言との差異は歴然としているので、選ぶのにはまったく何の苦勞も要りません」。

これにつづけてモリスは、コールリッジで詩集に入れられるのは「老水夫行」「クリスタベル」「クブラ・カーン」「愛」の4篇で（「これで60ページほどになる」）、さらにもうひとつ、「ワーズワス風」に染まっているところが難点だが「三つの墓」は許容できるとしている。結局エリスはこれらにさらに11篇を加えて、併せて16篇、109ページの『サミュエル・テイラー・コールリッジ詩選』（KP38；1896）を出した。

『ジョン・キーツ詩集』（KP24；1894）は1巻本で400ページと、コールリッジ詩集のおよそ4倍の分量になった。「シェリーの場合もどう見ても精選の必要は考えられない、とモリスはエリスに説明している。『パーシー・ビッシュ・シェリー詩集』（KP29；1895）は全3巻、総計1264ページ



『ジョン・キーツ詩集』（ケルムスコット・プレス、1894年）「夜啼鶯に寄せるオード」の後半と「ギリシアの壺のオード」の冒頭部分をふくむ見開き2頁。ゴールデン・タイプ、2色刷（所蔵：日本女子大学図書館）

の詩集となった。

これらの詩集のフォーマットは、KP本のなかでは比較的小ぶりの8折判（その半分のサイズの16折本が最小）で、1ページの縦が約205ミリ、横が140ミリで、ゴールデン・タイプの活字体による赤黒の2色刷り、軟ヴェラム装で揃えられている。この判型はテニソンの『モード——独白劇』（KP17；1893）、D. G. ロセッティの『バラッドと物語詩』（KP20；1893）と『ソネットと物語詩』（KP20a；1894）でも共通する。『モード』はテニソンの初期作品でモリスが学生時代に読んで感激した詩だった。後年のテニソン作品についてはモリスの評価はきわめて辛かった。ロセッティはモリスが青年期に会って決定的な影響を受けた詩人・画家である。なお、おなじく青年期から親交を結んでいたA. C. スウィンバーンの代表作『カリュドンのアタランタ——悲劇』（KP25；1894）も印刷している。これは判型が異なり、大型4折判（289×210mm）だった。モリス夫妻の友人であるW. S. プラントの『プロテウスの恋愛抒情詩と歌』（KP3；1892）はKP本のなかでモリス以外の著者の最初の詩集であるが、これは例外的にモリスの愛読書ではなく、友人の誼でプラントの意向を汲んで印刷したものだった。

最後にひとつ付言しておく、モリスがイギリス・ロマン派詩人たちを愛読していたとしても、ウィリアム・ワーズワスは例外だった。ジョン・ラスキンをはじめワーズワスの賞賛者が多かったなかで、モリスのワーズワス嫌いは特異であったといえる。じっさい、彼はことあるごとにこの詩人を難ずる発言をしている。その（特に後半生の）政治的反動への反感ということもあろうが、どうもそれだけではなさそうだ。ともあれ、モリスにとっては、ケルムスコット・プレスでワーズワス詩集を出すつもりなど毛頭なかったであろうことは断言できる。これはなかなか興味深い問題をはらんでおり、モリスの文学観を検討するうえで重要なトピックであると思われるが、これを論じるには稿を改めなければならない。

（英文学科教授）

新しい電子書籍の導入とご案内

1. Maruzen eBook Library (丸善雄松堂)

Maruzen eBook Library は、丸善雄松堂が提供している日本語の学術系図書を配信する電子書籍のプラットフォームです。現在280社余りの出版社が参加しています。

4月の新学期を前にして、新型コロナウイルスの影響により大学の前期授業はすべて遠隔方式になることが決まりました。政府の緊急事態宣言を受けキャンパスは入構禁止となり、図書館も4月3日より臨時閉館をせざるを得なくなりました。この事態への対応として自宅からでもネットワークで利用できる電子資料の充実が急務となりました。

そのため図書館ではすでに導入していた Maruzen eBook Library の拡充を図り、本学のリモートアクセスサービスである EZproxy を通して学外からの利用を可能にしました。図書は Maruzen eBook Library で提供されている中から、まずはシラバス掲載図書、参考図書、基本的な学術図書を中心に揃えました。これらはプラットフォームから直接書名などで検索して利用できます。また本学 OPAC で検索することもできます。図書は一部分の印刷やダウンロードが可能です。ただし提供元の事情により閲覧のみの利用となっている図書があることもご承知おきください。今後も提供冊数を増やしていく予定です。新規購入は順次図書館ホームページでお知らせします。どうぞご活用ください。

(西生田図書館課長 飯山 智子)



2. LibrariE (紀伊國屋書店)

JASMINE アカウントを持つ本学学生向けの電子図書館サービス「JWU LibrariE (ライブラリエ)」の利用を開始しました。



いつでもどこでも、スマートフォンやパソコンから電子ブックを読むことができるサービスです。公開初日から多くのご利用をいただいています。書架ではありません目にしない分野の図書も購入しています。文字拡大・反転、自動ページ送り、音声読み上げ等の機能もあり、とても便利です。これから少しずつコンテンツを増やしていくので、楽しみにお待ちください。

多くの方が利用できるように、貸出冊数は1冊、貸出期間は1週間、予約冊数は1冊、貸出延長は1回可能です。予約の順番が回ってきた際の通知はありません。

予約状況はマイページから確認できます。また、返却期限前の通知はありませんが、期限日を過ぎると自動的に資料が返却されます。JASMINE アカウントでログインするだけで、ご自宅でゆっくりご覧いただけます。試し読みもできますので、是非ご利用ください。

(<https://www.d-library.jp/libjwu/g0101/top/>) (館員・収書係 南木 香織)



2019年度ミニ講座の実施について（図書館ラーニング・commons活動報告）

JWUラーニング・commons
さくら

2019年4月3日、現図書館（目白）とともにJWUラーニング・commonsさくら（当初は仮称「ラーニング・commons」）がオープンした。これに伴い、ラーニング・commonsの周知を目的として、JWUラーニング・commonsさくらで年14回（中止回除く）、西生田図書館の泉ラーニング・スペース（西生田）で年2回の学修支援部会主催のミニ講座が開催された。

受講者アンケートには、ラーニング・サポーターによる論文・レポートの書き方やプレゼンテーション方法に関する講座をまた開催してほしいなど、様々な期待が寄せられており、今後の開催に反映していきたいと考えている。

泉ラーニング・スペース
(西生田)

講座タイトル	開催日	講師
図書館（目白）2階 JWUラーニング・commonsさくらミニ講座		
コンピュータプレゼンテーション事始め	2019年4月22日	日本文学科 大谷康晴先生
「令和」と『万葉集』	2019年5月8日	日本文学科 田中大士先生
本学図書館所蔵の「ケルムスコット・プレス」刊本揃いについて	2019年6月28日	英文学科 川端康雄先生
電子軌道を例とした物質波の可視化と弦振動の提示による通常波との対比についての考察	2019年9月25日	物質生物科学科 今城尚志先生
大地震時代を生きる、あなたの災害支援力を高めよう！一文京避難所大学プレ講座	2019年12月9日	住居学科 平田京子先生
大地震時を生きる、あなたの災害対応力を高めよう！～まずはあなたが生き残るための備えと活用～	2019年12月16日	食物学科 松月弘恵先生
プレゼン方法教えます！！講座	2019年12月23日	ラーニング・サポーター 3名 (被服学専攻 M1 2名, 英文学科 4年 1名)
日本人の聖地エルサレム巡礼／訪問	2020年1月17日	図書館長・史学科 臼杵陽先生
平戸松浦家の大名文化—茶道・学問・音楽—	2020年1月21日	史学科 吉村雅美先生
折り紙の歴史と遊び	2020年1月22日	ラーニング・サポーター (史学専攻 M1)
知っていれば怖くない！就職活動ってどうやるの？～就職活動をしていて思うこと～	2020年1月28日	ラーニング・サポーター (家政経済学科 3年)
私たちの生活の中にある身近な数学	2020年2月20日	ラーニング・サポーター 2名 (数理・物性構造科学専攻 M2)
図書館活用術！～文系と理系の文献収集法とプレゼン資料の作り方～	2020年2月21日	ラーニング・サポーター 2名 (日本文学専攻 M2, 物質・生物機能科学専攻 M2)
防災について考えよう	2020年2月27日	ラーニング・サポーター (生活経済専攻 M2)
毎日を元気に過ごそう！—健康な体づくりのための食生活について—	新型コロナウイルス感染状況により中止	ラーニング・サポーター 2名 (人間発達学専攻 D3, 食物・栄養学専攻 M2)
絵で見る自分の心 —「風景構成法」の実践—	新型コロナウイルス感染状況により中止	ラーニング・サポーター 2名 (児童学専攻 M2)
西生田図書館2階泉ラーニング・スペース（西生田）ミニ講座		
アニメの世界にみる現代の「絆」—ハウルとアナ雪を手がかりに—	2019年12月13日	教育学科 田中雅文先生
論文・レポートの書き方	2020年1月29日	ラーニング・サポーター (関連文化論専攻 D3)

(館員・閲覧係 中澤恵子)

図書館からのお知らせ

図書館の動きを皆様にご理解いただき、より一層ご利用いただけるよう2018年4月～2020年3月の取り組み、感染症関係の対応をご紹介します。最新情報は図書館ホームページをご覧ください。

<2018年度・2019年度の主な取り組み>

- 図書館システム更改(iLiswave-J V3)(2018年4月)
スマートフォン対応サイト開始, OPAC操作性向上等
- スタンプラリー実施(目白, 2018・2019年4月)
- 「学生が読みたい本」実施(西生田, 2018・2019年5月・10月)
- 貴重書特別展示:ケルムスコット・プレス版
「チョーサー作品集」[源氏物語](目白, 2018年5月)
「ケルムスコット・プレス刊本」全53点(目白, 2019年5月)
- 紀伊國屋書店新宿本店にて、学生による選書ツアー実施(目白, 2018年8月 2019年6月) 都内女子大学図書館合同企画「東京の女子大学学生が選んだおすすめ本」に参加(目白, 2018・2019年12月)
- 玄関ホール展示「ウィリアム・モリスと書物芸術2018」(目白, 2018年11月)
- 泉会貴重資料購入援助費による新図書館開館記念貴重書「ケルムスコット・プレス刊本52点」新収, 53点完全揃いとなる(2019年1月)
- 旧図書館から新図書館への蔵書等移動(目白, 2019年2月～3月), 新図書館竣工(目白, 2019年3月)
- 新図書館オープニングセレモニー・定礎式開催, 利用開始(目白, 2019年4月)
- ラーニング・コモンズ(スペース)ミニ講座開催(目白2019年度14回, 西生田2019年度2回)
- 新図書館見学者受入(目白, 2019年度約1900名)
- 図書館・学生滞在スペース落成式開催, 図書館(目白)2階ラーニング・コモンズの名称がJWUラーニング・コモンズさくらと決定(目白, 2019年6月)
- 図書館公式Twitter運用開始(2019年7月)
- 新図書館利用開始後の改善(カーテン設置, 照明の調節, 集密書架配架資料の一部を固定書架に移動, エントランススロープにガイドの点字鋏取付等)(目白, 2019年4月～3月)
- 教員からの依頼により授業内ガイダンスを実施(目白 2018年度 5学科 計26回375名参加 2019年度 5学科 計34回507名参加, 西生田 2018年度 5学科 計13回223名参加 2019年度 4学科 計14回234名参加)

新型コロナウイルス感染症関係 図書館の対応(2020年4月～)

2020年度新入生オリエンテーション、前期授業が遠隔型になったことをふまえ、図書館では様々な対応を行っています。内容は図書館ホームページに掲載し随時更新中です。

- ◆学部新入生向け図書館オリエンテーションのスライドを掲載(manaba)。
- ◆新大学院生のための図書館案内掲載。
- ◆自宅学習で使えるオンライン・データベース等のご案内を掲載(更新中)。
- ◆電子ブック充実のお知らせを掲載(更新中)。詳細は「図書館だより」今号のp.6をご覧ください。
- ◆在学生(事前申込制)・教職員対象の限定開館を実施中(目白6月8日開始, 西生田6月12日開始)。
- ◆春休み貸出図書返却期限日延長を実施。
- ◆限定開館中の予約図書保留期間の延長を実施中(3開館日→7開館日)。
- ◆本学図書館所蔵図書の郵送貸出, 本学図書館所蔵雑誌の論文複写郵送を実施。(卒論生(学部4年生)・大学院生対象。期間5月12日～6月30日)

編集後記 4月～6月の初めまでが急速臨時閉館となり、その後も事前申込を必須とする限定開館が続いている。この号の発行も大幅に遅れることになった。自宅学習を余儀なくされる利用者のための出版社等提供元の配慮で、利用範囲が一時的に拡大されたデータベースもあり、予想もしなかった状況の中、図書館も学外から利用できる資料を大幅に増やし、卒論生への郵送貸出を実施するなど情報提供の努力を続けている。(浜口)